

『耳の聞こえない人の生活と税金』

練馬区立中村中学校 三学年 立石 ゆう

私には、保育園の時から耳の聞こえない友人がいる。その友人の家族は全員耳が聞こえないので、コミュニケーション方法は手話である。私はその友人と話す時は筆談や簡単な手話でコミュニケーションをとっているが、聞こえる友人と同じようにスムーズにコミュニケーションをとるのは難しいと感じている。やはり、聞こえない人は聴覚に障害があるため、耳からの情報が入りにくく音声でのコミュニケーションが困難な人が多いのではないかと思う。私たちと比べると、日常生活の中で困っていることがたくさんあって大変なのではないだろうか。

私の母は、手話通訳の仕事や聞こえない人と一緒に活動もしていて、私も小さい頃から聞こえない人と接する機会は多かった。このような経験から、私は聴覚障害者に関する税金について興味をもち調べてみたいと思った。実際調べてみると、耳が聞こえない人の暮らしを支えるために税金が使われていることが分かった。

その一つとして練馬区では手話通訳派遣事業がある。これは、聞こえない人が病院の診察、学校行事、保護者会や区役所での手続

きなどで利用でき、手話通訳派遣にかかる費用は、区が負担してくれ利用者の負担はない。手話通訳者派遣は、聞こえない人と聞こえる人とのコミュニケーションのサポートをしているので、聞こえない人にとってはもちろん聞こえる人にとっても大事なものだと思う。

私は、聞こえない人の日常生活を税金を使ってサポートしていることは知らなかった。実際、街中で聞こえない人が困っている様子を見たことがあり、こんな時に手話ができる人がいれば良いなと思うことが度々ある。だから、手話通訳派遣事業は聞こえない人にとっても、聞こえる私たちにとってもとても強いと感じる。

昔に比べると、携帯電話が普及しメールでコミュニケーションができ、身の周りには視覚的な情報も増えてきた。しかし、音情報のみで聞こえない人にとっては理解できないのではと思う時がある。それは、電車が緊急停車した時に車内放送のみで文字情報が入ることである。聞こえない人は、何も情報が入ってこないと不安になると思うので、車内の電光掲示板にも情報を流すべきだと考え

る。

また、日本映画に字幕がついている作品が少ないことである。やはり、日本映画にも字幕をつけて聞こえる人と同じように映画を楽しめると良い。

このように、聞こえない人がさらに暮らしやすくなるように、今後税金を使って視覚的な情報を取り入れてほしい。今回、聞こえない人の生活に関わる税金について調べてみて、私たちの生活の中で税はどのようなところで役に立っているのか知りたくなった。これから、みんなが暮らしやすい社会を私も一緒につくっていききたい。